

## 会 告

## 第 101 回 (昭和 56 年 4 月) 講演大会講演募集案内

申込 (原稿同時提出) 締切り 昭和56年1月12日(月)

本会は第 101 回講演大会を昭和 56 年 4 月 2 日(木), 3 日(金), 4 日(土) の 3 日間東京大学において開催することになりました。下記により講演募集をいたしますので、奮つてご応募下さるようご案内いたします。

講演希望者は昭和 56 年 1 月 12 日 (月) までに申込用紙と講演概要原稿を提出して下さい。

なお、前回より講演概要中の図、表、写真の説明は英文で書いてもよいことになっておりますのでお知らせいたします。

講演概要は英文化 (所定のタイプ用紙 1 枚) し、Trans. ISIJ に投稿できるようになっておりますので、多数ご投稿下さるよう併せてご案内申し上げます。投稿締切: 昭和56年4月30日 (木) (詳しくは N15 頁参照)

## 講演ならびに申込要領

1. 講演内容 鉄鋼の学術、技術に直接関連あるオリジナルな発表
2. 講演時間 1 講演につき講演15分
3. 講演前刷原稿
  - 1) 原稿は目的、成果、結論が理解しやすいよう簡潔にお書き下さい。
  - 2) 設備技術に関する原稿には計画にあつての基本方針、特色、成果等が必ず盛り込まれているものとする。
  - 3) 商品名等は原則としてご遠慮願います。
  - 4) 謝辞は省略して下さい。
  - 5) 原稿枚数は原則として所定のオフセット用原稿用紙 (1600字詰) 1 枚とします。しかし内容的に止むを得ない場合は 2 枚までを認めます。(いずれも表、図、写真を含む) ただし編集委員会で査読のうえ 1 枚にまとめなおし願うことがありますのであらかじめご了承下さい。
  - 6) 原稿は所定の用紙にタイプ印書あるいは黒インキまたは墨を用い手書きとして下さい。
  - 7) 単位は「鉄と鋼」投稿規程に準じます。
  - 8) 図、表、写真の説明は和文または英文とします。
  - 9) 原稿用紙は有償頒布いたしております。
  - 10) 原稿の書き方は鉄と鋼 Vol. 66, No. 13 会告末に綴込まれております。
4. 講演申込資格 講演者は本会会員に限ります。非会員の方で講演を希望される方は、所定の入会手続きを済ませたうえ、講演申し込みをして下さい。また共同研究者で非会員の方も入会手続きをされるよう希望いたします。
5. 講演申込制限 講演申し込みは 1 人 3 件以内といたします。
6. 申込方法 本誌13号、14号会告末に添付の講演申込用紙ならびに受領通知ハガキに必要事項を記入の上、講演前刷原稿とともに申し込み下さい。
7. 申込用紙の記載について
  - 1) 申込用紙は (A), (B), (C) とも太字欄をのぞき楷書でご記入下さい。(申込用紙は、本誌13号、14号会告末に綴込まれております)
  - 2) プログラム編成上の参考といたしますので、「講演分類欄」に講演内容が、下記講演分類のいずれに該当するか、番号でご記入下さい。
  - 3) 講演者には氏名の前に○印を、また研究者氏名にはローマ字読みを付して下さい。
  - 4) 講演要旨は、情報管理のための文献検索カードに利用いたしますので講演内容が明確に把握できるようおまとめ下さい。
8. 申込みの受理 下記の申し込みは理由のいかんにかかわらず、受付はいたしませんので十分ご注意下さい。
  - 1) 所定の用紙以外の用紙を用いた申込
  - 2) 必要事項が記入されていない申込
  - 3) 単なる書簡または葉書による申込ならびに電報、電話による申込

4) 鉛筆書き原稿，文字が読みづらいもの，印刷効果上不適当と認められるもの

9. 申込締切日 昭和 56 年 1 月 12 日 (月) 17 時着信まで  
申込用紙，講演前刷原稿を同時提出のこと。

10. 申込先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階  
(社) 日本鉄鋼協会 編集課 (電) 03-279-6021 (代)

#### 講演分類

製 鉄						製 鋼					加 工			
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
製鉄基礎	原料・燃料	高炉製鉄	還元鉄製造	合金鉄	製鉄耐火物	製鋼原料	製鋼基礎	溶解・精錬	鑄造	製鋼耐火物	塑性加工	熱処理	表面処理・防食	
加 工			材 料											
15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25				
鑄造	粉末冶金	溶接	基礎物性	組織	性質	分析	試験・検査技術	計測・制御	管理境・情報	その他				

### 原稿用紙，合本ファイル有償頒布について

1. 原稿用紙 (鉄と鋼用本文用紙 50 枚・図面用紙 16 枚綴)

1 冊 400円 (〒 250円)  
2～3 冊 (〒 300円)

2. 図面用紙 (鉄と鋼用 50 枚綴)

1 冊 400円 (〒 250円)  
2～3 冊 (〒 300円)

3. 講演前刷用原稿用紙

頒布料金 1 枚 5 円 (頒布の枚数は下記のとおり限定いたします。なお料金は送料込)

5 枚 225円, 20枚 400円, 40枚 500円  
10枚 250円, 25枚 425円, 50枚 850円  
15枚 275円, 30枚 450円

100 枚以上は小包となりますので係までお問い合わせ下さい。

4. 「鉄と鋼」用合本ファイル

1 冊 250円 (送料別)

5. 申込方法 ①原稿紙の種類，②枚数，③送付先明記のうえ，④料金 (切手でも可) を添えお申し込み下さい。

6. 申込先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階 日本鉄鋼協会 庶務課

第 101 回講演大会 (昭和 56 年春季)

ポスターセッション講演募集案内

申込(原稿同時提出)締切り 昭和56年 1 月12日(月)

発表形式の新しい試みとして3年間にわたり春の講演大会でポスターセッションを実施いたしましたところ、大変好評を博しました。そこで56年の春季大会でも引続きポスターセッションを実施し、一層の成果をあげたいと存じます。

ポスターセッションとは何か？ 講演者にはポスターをはる場所と長い時間を与え、聴講者には聴きたい講演の選択と時間を与え、個人の間の十分な触れ合いと意見交換ができるようにした新しい方式であります。

ポスターセッションはどのように運営されるか？ 講演者には室内にポスターのはれる壁面の他に机1個が用意されます。発表時間は約2時間与えられます。1名以上(できれば2名)の講演者が必ずその場に居ることが必要であります。講演者は下記の注意を守る限り、ポスター、写真、試料、テープレコーダなど何を用いてもよく、聴講者はどのブースでも話を聴きあるいは討論することができます。

今大会でのポスターセッションの運営方法 現状では従来方式の講演をこの方式に全部置きかえることは困難であります。今回は製鉄(高炉炉内状況)、製鋼(新しい転炉製鋼技術)、加工、性質(ステンレス鋼)の各部門につき各5~10講演をポスターセッションで運営する予定であります。

(\* 前2回は基礎的なものに限りましたが、今回は技術的なものも歓迎いたしますので、是非ご参加下さい。)

- (1) ポスターセッションを希望する場合、講演申込書の「特記事項」欄に「PS希望」と朱筆して下さい。ただし申込み多数の場合には一般講演に変更することもあります。
- (2) 一般講演の中から編集委員会でポスターセッションの適用のおすすめをすることもあります。
- (3) 講演の前刷りは普通講演に準じます。
- (4) ポスターセッションの時間は次のようにいたしました。

	ポスター 搬入展示	講演・討論	撤 去
午 前	9:00 ~10:00	10:00 ~12:00	12:00 ~12:30
午 後	12:30 ~13:30	13:30 ~15:30	15:30 ~16:00

(5) ポスターを張る壁面は、幅 1.8m×高さ 1.0m 1面と、幅 0.9m×高さ 1.0m 2面があります。

ポスターは壁面に画鋲で張り、B4判を使いますと壁面に約20枚が一度にはれます。(画鋲、セロテープなどは協会で準備します)。サンプルや模型、写真アルバムなどは机の上に展示することもできます。

(6) ポスターに書く文字は2m離れてもみえるように字の大きさを日本字は10mm以上英字や数字は7mm以上に大きくして下さい。

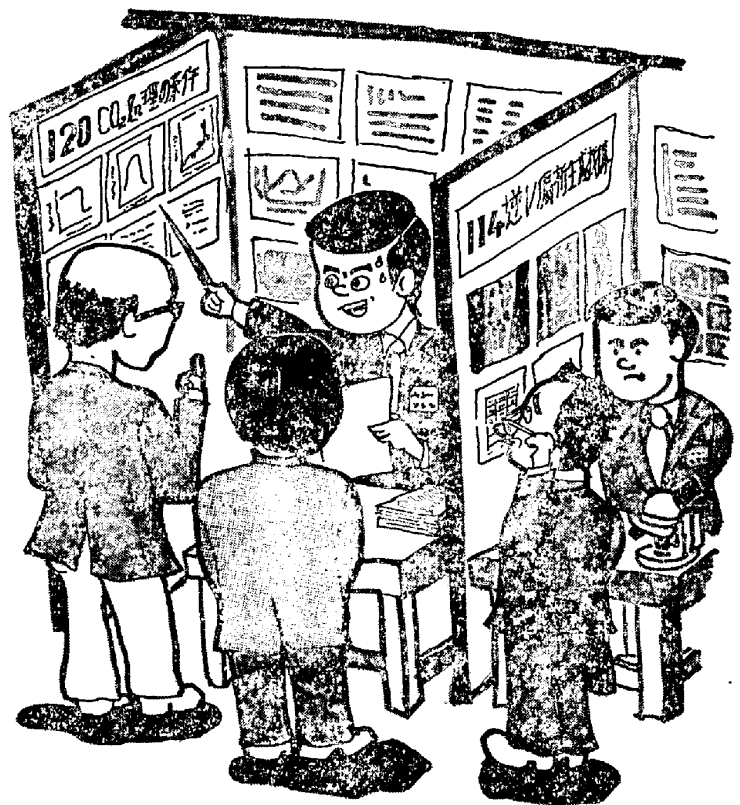
(7) 事務局にて壁面の上部に横書きで講演番号、演題、所属、発表者を記しておきます。

(8) ポスターは1枚ごとに左上に講演番号を記しておいて下さい。

(9) 講演者には胸につける番号札をさし上げますので講演中つけて下さい。

(10) スライドは使用できません。

(11) ポスターセッションへの申込方法は、一般講演申込と同じです。



## 昭和 56 年秋季 (第 102 回) 講演大会討論会

### 討論講演募集のお知らせ

昭和 56 年秋季 (第 102 回) 講演大会に開催されます討論会講演を下記により募集いたしますので誓つてご応募下さるようご案内いたします。

#### 1. 討論会テーマ

##### 1) 高炉における計測技術 座長 研野 雄二

高炉の計測技術は、物質収支・熱収支の情報を正確に把握するという従来の段階から、解体調査における融着帯の知見等を基に、高炉プロセスそのものをより精度高く探求する方向に進展し、生産の安定化・燃料比レベルの大幅な低減等大きな成果をあげている。またコンピュータ等情報処理技術の目覚ましい進歩と相まって、プロセス制御まで結びつきたいいくつかの実用モデルが報告されている。

本討論会においては、現在の技術開発の状況および将来の高炉計測技術・プロセス制御技術のあり方、またそれに対応する新検出端についての討議をお願いしたい。

##### 2) 連铸時の酸化物系非金属介在物の挙動 座長 宮下 芳雄・副座長 大橋 徹郎

連铸スラブおよびブルームの高級鋼化 (ラインパイプ、D I 缶など)、鋼種拡大 (弱脱酸鋼など) の過程で問題になる介在物の実体 (大きさ、組成、分布状況) をまず確認したい。ついで出鋼から取鍋精錬を経て連铸にいたるプロセスで上記介在物の生成機構に言及し、その低減対策をマシンのタイプを含めた設備面および各種操業面より討論したい。介在物の同定法を含む基礎検討から現場的経験まで幅広い範囲で積極的な発表をお願いしたい。

##### 3) 大型形鋼への連铸素材の活用 座長 柳沢 忠昭

大型形鋼の素材製造プロセスにおいて省資源、省エネルギー、高品質化のために、連铸素材の使用比率の向上が強く進められ、顕著な効果を発揮している。ところで、大型形鋼の製造においては素材として鋼塊製ビームブランクを使用することが多く、連铸化比率の向上には、連続铸造技術のみならず、圧延技術上の課題も多い。そこで、大型形鋼への連铸素材の活用技術上の諸問題とその対策について討議し、今後の動向を探索し、将来への指針の一助とする。

##### 4) 低強度高靱性鋼の破壊靱性 座長 中村 正久・副座長 布村 成具

原子炉圧力容器をはじめ多くの構造物、装置を対象とした鋼材の破壊靱性値として  $J_{Ic}$  試験が注目されている、試験方法としても、R 曲線法、フラクトグラフィ法、電位差法、A E 法、超音波探傷法などが提案されており、これらの方法相互の関係、金属組織、溶接熱影響部、応力除去焼なまし及び長時間加熱脆化などの種々の金属組織の変化に基づく安全性評価など広い視野からの発表と討論を期待する。

##### 5) 鋼の高温低サイクル疲労 座長 金尾 正雄

原子炉、火力発電、化学工業などにおける各種高温機器は安全性の追求と最適設計が強く要求されている。このため、高温機器用材料の高温低サイクル疲労も重要な問題となり、各方面で活発な研究が行われている。

そこで、鋼 (超合金を含む) の高温低サイクル疲労に及ぼす材質、温度、時間、環境等諸因子の影響、損傷過程 (組織変化、き裂発生と伝ば等)、寿命推定などに関連した多方面からの発表と活発な討論を期待する。

#### 2. 申込締切日 昭和 56 年 2 月 13 日 (金)

3. 申込方法 「鉄と鋼」第 1 号会告に綴込みの申込用紙に必要事項ならびに申込書裏面に 400 字程度の講演の抽象トクトをお書きのうえお申し込み下さい。

4. 討論講演の採否 討論講演としての採否は、前記ご提出の抽象トクトにより検討のうえ決めさせていただきますのであらかじめお含みおき下さい。

#### 5. 講演前刷 昭和 56 年 5 月 15 日 (金)

原稿締切日 討論講演として採用された方は、本会所定のオフセット原稿用紙 4 枚以内 (表、裏、写真を含め 6,700 字) に黒インクまたは墨をもちいて楷書で明りようにお書きのうえ、ご提出下さい。

6. 講演テーマ・講演者の発表 「鉄と鋼」第 67 年第 9 号 (昭和 56 年 7 月号) にて発表いたします。

7. 講演内容の発表 「鉄と鋼」第 67 年第 10 号 (8 月号) に講演内容を掲載いたします。

#### 8. 討論質問の公募締切日 昭和 56 年 9 月末日

前記 10 号掲載の講演内容をご覧のうえ、質問対象講演を明記のうえ、本会編集課宛ご送付下さるようお願いいたします。

申込先: 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階

日本鉄鋼協会編集課 TEL 03-279-6021 (代)

## 第 72・73 回西山記念技術講座開催のお知らせ

### —— 特殊精錬技術の最近の進歩 ——

主催 日本鉄鋼協会

第 72・73 回西山記念技術講座を下記のとおり開催いたしますので多数ご来聴下さいますようご案内いたします。

#### I 期 日 第 72 回 昭和 56 年 2 月 17 日(火), 18 日(水)

東京 農協ホール(千代田区大手町 1-8-3 農協ビル 9 階)

#### 第 73 回 昭和 56 年 3 月 11 日(水), 12 日(木)

大阪 大阪科学技術センター大ホール(大阪市西区靱本町 1-8-4)

#### II 演題ならびに講師

第 1 日	9:30~11:00	総論	特殊鋼部会長・大同特殊鋼(株)	藤原 達雄
	11:10~12:40	特殊精錬の基礎	九州大学工学部	川合 保治
	13:30~15:00	電気炉製鋼と真空脱ガス法	山陽特殊製鋼(株)	杉山 信明
	15:10~16:40	ステンレス鋼の炉外精錬法	日本冶金工業(株)本社	渡辺 哲弥
第 2 日	9:30~11:00	取鍋精錬法 I (LF, VAD, ASEA-SKF)	三菱製鋼(株)東京製造所	橋本 清
	11:10~12:40	取鍋精錬法 II (GAS バブリング, インジェクション, 他)	愛知製鋼(株)	伊藤 孝
	13:30~15:00	特殊溶解法 (VAR, ESR, 他)	日立金属(株)安来工場	岸田 民也
	15:10~16:40	炉外精錬用耐火物	東京窯業(株)	守川平四郎

#### III 講演内容

##### 1. 総論 藤原 達雄

最近の鉄鋼生産技術の進歩のうち、溶製技術においては、省エネルギー、生産性向上、高品質鋼要求の点から、炉外精錬技術の発展が著しい。

本稿では、日本における炉外精錬技術の発展経緯、最新の技術レベル、さらに高級鋼溶製技術としての特殊溶解法の位置づけについて、特殊鋼を中心に概説し、将来動向についても総括的に述べる。

##### 2. 特殊精錬の基礎 川合 保治

最近、製鋼炉外で溶銑、溶鋼を精錬する各種のプロセスが提案され、また実際操業に応用されている。一方各種の特殊溶解炉も着実にその地歩を固めている。これらの基礎となるのは、ガスおよび粉体の吹き込み技術であり、新しい精錬スラグ、フラックスの開発である。

本講座ではこれらに関する基礎的問題、すなわち吹き込みガスの挙動、吹き込み粉体の精錬反応、特殊スラグの精錬機能などについて概説する。

##### 3. 電気炉製鋼と真空脱ガス法 杉山 信明

電気炉操業における精錬の役割の大部分は真空処理に移行している。これは電気炉の生産性向上の一因をなすものであり、同時に特殊鋼の品質特性をも著しく向上させた。真空処理の操業について、その反応容器としての耐火物およびスラグ条件と脱炭条件や処理時間などについて述べる。ついで特殊鋼の品質特性たとえば転動疲労寿命や  $O_2$  含有量について記述し、最後に、エネルギー関連の諸原単位について述べる。

##### 4. ステンレス鋼の炉外精錬法 渡辺 哲弥

最近のステンレス鋼の炉外精錬技術の進歩は目ざましいものがあり、生産性の向上、原料・エネルギーの合理化、品質面においても高純度フェライト鋼などの高性能合金の精錬技術開発など極めて大きな意義をもっている。炉外精錬法としては AOD 法で代表される底吹き転炉により稀釈  $O_2$  ガスで脱炭する方法と、真空容器中で脱炭する方法をとりあげ、脱炭、スラグ反応などの精錬反応理論、精錬機能、操業特性、生産性、品質などの観点から両者の特性を対比しつつ論じたい。

##### 5. 取鍋精錬法 I 橋本 清

(講演内容は追って掲載いたします)

##### 6. 取鍋精錬法 II 伊藤 孝

真空処理や加熱を行わない取鍋精錬法という分類であり、Ar などの不活性ガスを使つた取鍋精錬や、特殊合金を歩留よく添加する方法、また近年特に注目されているインジェクション法などを対象とする。各プロセスとも近年積極的に開発、改善が行われ、主に量産鋼を対象に広く実施されて炉外精錬の一翼を担っているが、現在利用されているプロセスの種類、操業状況、効果、他の炉外精錬との位置づけ、将来性などについて記述する。

### 7. 特殊溶解法 岸田 民也

近時、航空機用材料、原子力関連機器材料など高度の品質や信頼性が要求される材料の需要が増大している。これらの材料に対しては、VIM, VAR, ESR など、いわゆる特殊溶解を行うことが一般化してきている。ここでは、VIM, VAR, ESR などにおける最近の装置や操業技術などの進歩動向をのべるとともに、代表的鋼種において、これら特殊溶解法を適用した場合の特性の改善例を紹介する。また、最近電子ビームやプラズマなど特殊熱源を用いた精錬法も発展してきたが、これらについても言及する。

### 8. 炉外精錬用耐火物 守川平四郎

炉外精錬用耐火物として、現在主として使用されているマグクロ質ダイレクトボンド、リボンドれんが、マグネシヤカーボンれんが、ドロマガれんが其他について、基本的な特徴の解説を行い、これらが RH, DH, AOD, VOD, LF, VAD, ASEA-SKF 等に使用されている状況を説明し、現在の問題点、及び将来の課題について概説する。

IV 聴講無料 (事前の申込みは必要ありません)

V テキスト代 4,500 円

VI 問合せ先 〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 日本鉄鋼協会編集課 TEL 03-279-6021

## 第3回高温変形部会シンポジウム案内

テーマ：高温変形と高温破壊

主催：鉄鋼基礎共同研究会高温変形部会

当部会では下記によりシンポジウムを開催することになりましたので多数ご参加下さるようご案内いたします。

記

1. テーマ 第3回高温変形部会シンポジウム「高温変形と高温破壊」

2. 日時 昭和56年2月17日(火) 9:00~17:00

3. 場所 経団連会館 14 階 経団連ホール  
(東京都千代田区大手町 1-9-4 電 03-279-1411)

4. 参加費無料 自由参加

5. テキスト代 約 3,000 円

4. プログラム

挨拶 部会長 京大 田村 今男

#### I. 高温変形機構

◦ Keynote Lecture 「高温変形機構」

◦ 問題提起 (1) 「高温変形の回復速度と高温変形条件」

(2) 「動的再結晶挙動の問題点」

(3) 「動的再結晶の生成過程の特徴及び静的再結晶との比較」

九大 吉永日出男

横国 遠藤 孝雄

電通大 酒井 拓

京大 牧 正志

#### II. 高温変形抵抗

◦ Keynote Lecture 「鋼の熱間変形抵抗」

◦ 問題提起 (1) 「Nb 鋼の高温変形抵抗」

広大 大森 正信

川鉄 榎並 禎一

#### III. 高温延性と高温破壊

◦ Keynote Lecture 「高温破壊と粒界すべり」

◦ 問題提起 (1) 「1200~600°C 温度域における鋼の脆化特性」

(2) 「高温変形機構と熱間延性」

(3) 「リムド鋼の未凝固圧延について」

東大 堀内 良

新日鉄 鈴木 洋夫

鋼管 三瓶 哲也

住金 白石 博章

東北大 須藤 一

日新 星野 和夫

大同 伊藤 幸生

新日鉄 小林 尚

◦ Keynote Lecture 「鋼の高温粒界破壊」

◦ 問題提起 (1) 「オーステナイト系ステンレス鋼の高温延性と粒界析出」

(2) 「SUS 309 S ステンレス鋼の熱間加工性」

(3) 「二相ステンレスの熱間加工性」

#### 5. 連絡先・担当者

日本鉄鋼協会技術部 大山高司 〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階 電話 03-279-6021

## 東海支部 特別講演会開催案内

当学協会支部行事の一環として下記により特別講演会を開催いたしますので多数ご聴講下さいますようお願い申し上げます。(入場無料)

記

日時：昭和56年2月5日(木) 14:00~16:00

場所：名古屋市千種区不老町  
名古屋大学工学部4号館3階  
第433番講義室

題目：「イオンを基礎とした被膜形成技術」

講師：京大工 高木 俊宜

問合せ先：名古屋市千種区不老町 名古屋大学工学部  
金属・鉄鋼工学教室内 〒464  
日本鉄鋼協会東海支部  
Tel. (052) 781-5111 内線 3372

## 「金属の表面分析入門」講習会

主催：日本鉄鋼協会，日本金属学会東海支部 協賛：金属表面技術協会中部支部，ほか

当支部では行事の一環として，上記各位のご協賛を得まして「金属の表面分析入門」と題しまして，講習会を下記により開催することに相成りました。講師には，理解し易く，また金属表面分析の専門外の方にも分り易くお話しいただくようお願い申し上げますので，奮ってご聴講下さいますようお願い申し上げます。

記

日時：昭和56年1月28日(水) 10:00~17:00

1月29日(木) 9:00~17:00

会場：名古屋市千種区不老町  
名古屋大学工学部講堂会議室

定員：100名

会費：会員 15,000円，非会員 18,000円，  
学生 5,000円

(含むテキスト代，主催，協賛団体の会員である会社，工場よりお申込みの場合，参加者が会員外でも会員なみに取扱います。)

申込締切：昭和55年12月末日

申込方法：指定書式により，参加費を添えて 〒464 名古屋市千種区不老町 名古屋大学工学部 金属・鉄鋼工学教室内 日本金属学会東海支部 日本鉄鋼協会東海支部までお申込み下さい。参加費は現金書留又は東海銀行覚王山支店普通預金 758-895 へお振込み下さい。申込みと同時に聴講券をお送り申し上げます。

### プログラム

第1日 1月28日(水)

- |                   |            |
|-------------------|------------|
| 挨拶                | 支部長 小松 登   |
| 1) 10:10「表面分析法概説」 | 理 研 宇田 応之  |
| 11:40~12:00 質疑応答  |            |
| 2) 13:00「電子線回折」   | 早大理 大坂 敏明  |
| 14:30~14:50 質疑応答  |            |
| 3) 15:00「蛍光X線分析」  | 三重大工 作花 濟夫 |
| 16:30~16:50 質疑応答  |            |

第2日 1月29日(木)

- 1) 9:00 「光電子分光」 豊田中研 磯谷 彰男  
10:30~10:50 質疑応答
- 2) 11:00 「オージェ電子分光」  
新日鉄基礎研 小林 尚  
12:30 質疑応答
- 3) 14:00 「I MA 及び E PMA」  
住金中研 藤野 允克  
15:30~15:50 質疑応答
- 4) 16:00 「総括討論(パネル討論)」

## チタンおよびチタン合金の加工性 シンポジウムの開催について

主催 日本金属学会，協賛 本会ほか

日時：昭和56年1月28日(水) 9:40~16:30

場所：学士会館分館6号室  
(東京都文京区本郷 7-3-1 東大赤門わき)

- I. チタンおよびその合金の塑性加工における特長(鋼板等成形用材料との比較において)  
東大工 宮川 松男
- II. 塑性加工に関連する金属学的特性  
双晶変形(温度依存性，機械的特性との関連)  
東北大金研 和泉 修  
超塑性変形 阪大工 堀 茂徳  
集合組織(純チタン板の集合組織と機械的性質について)  
神鋼中研 長谷川 淳，ほか
- III. 加工性と加工上の諸問題  
チタン薄板のプレス成形性  
東大宇宙航研 小原 嗣朗  
双晶変形の塑性加工への応用  
住金中研 林 豊  
日本ステンレス研 石山 成志  
チタンおよびその合金薄板材の成形技術  
三菱重工名航 井上 稔，高橋明男  
前刷1部 800円(送料 200円)  
照会先 仙台市荒巻字青葉  
社団法人 日本金属学会  
(電話 0222-23-3685)

## 第13回結晶成長国内会議 (NCCG-13)の講演募集について

主催：日本結晶成長学会，協賛：本会

日時：昭和56年8月17日(月)~19日(水)

場所：札幌市教育文化会館(地下鉄東西線西11丁目  
駅から徒歩4分)

申込み締切：昭和56年5月18日(月)

予稿原稿締切：昭和56年6月8日(月)必着

申込み方法：往復ハガキに

①講演題目，②講演者の氏名と所属(登壇者に○印)

③プログラム編成に必要な程度の講演要旨，④返信ハガキには原稿用紙送付先を明記して，下記の世話人宛に申し込む。

世話人：〒060 札幌市北区北19条西8丁目  
北海道大学低温科学研究所 小林禎作  
(電話 (011) 711-2111, 内線 5467)

### 第7回「マトリックス解析法に関するシンポジウム」の開催と発表論文の募集について

主催 日本鋼構造協会 協賛 日本鉄鋼協会ほか  
 開催期日 昭和56年6月上旬  
 会場 東京(詳細未定)  
 発表論文の募集

#### 部門

- a) 基礎理論および計算法, b) 薄板構造および殻構造, c) 非線形問題, d) 動的問題, e) 構造設計および応用, f) 地盤・岩盤問題, g) 熱・流体問題, h) データ処理

#### 応募方法

- 講演発表を申込みされる方は、昭和56年2月28日(土)までに邦文約400字の概要を下記宛に提出下さい。
- 発表論文原稿締切 昭和56年4月24日(金)
- 発表申込および原稿送付先  
 日本鋼構造協会「マトリックス解析法に関するシンポジウム」係  
 〒100 東京都千代田区丸の内3-3-1 新東京ビル848 Tel. 03-212-0875(代)

### 塑性加工春季講演会講演募集について

共催：日本塑性加工学会，日本機械学会，協賛 本会ほか

開催日：昭和56年5月21日(木)～23日(土)  
 会場：職業訓練大学校(神奈川県相模原市相原1960)  
 問合せ申込み先：社団法人 日本塑性加工学会  
 〒106 港区六本木5-2-5 トリカツビル  
 電話(03)402-0849

講演申込締切：昭和56年2月13日  
 論文集原稿締切：昭和56年3月25日

### 第18回理工学における同位元素研究発表会講演募集

主催 日本アイソトープ協会，本会ほかの共同主催  
 会期 昭和56年6月29日(月)～7月1日(水)  
 会場 国立教育会館(東京都千代田区霞が関3-2-3)  
 問合せ申込み先

113 東京都文京区本駒込2-28-45  
 日本アイソトープ協会内  
 理工学における同位元素研究発表会運営委員会  
 Tel. (03)946-7111(代)内線261

発表申込締切：昭和56年2月28日(土)必着  
 講演要旨原稿締切：昭和56年4月15日(水)必着

### 「自動車の軽量化と最近の構造・強度問題シンポジウム」の開催について

主催：自動車技術会 協賛：本会ほか  
 開催日時：昭和56年8月13日(金)10:00～17:00  
 会場：東京・市ヶ谷 自動車会館 大会議室  
 東京都千代田区九段南4-8  
 (電話 03-264-4719)

- 自動車軽量化にともなう構造・強度問題  
 自動車会社各社より、軽量化材料・構造の疲労強度、衝突安全性との関係、軽量化構造について分担して報告
  - 自動車の腐食と信頼性
  - 自動車の疲労寿命評価  
 I 実働荷重下の寿命推定  
 II 最近の実働波形処理技術の動向
  - スポット溶接継手の強度  
 I 高張力鋼板とそのスポット溶接継手強度  
 II 多点スポット溶接継手の疲労強度
- 問合せ先 東京都千代田区五番町10番2号  
 五番町センタービル5階  
 社団法人 自動車技術会(電話 03-262-8211)

### 講習会・フラクトグラフィとその応用の開催について

主催：日本材料学会 協賛：本会ほか  
 期日 昭和56年6月25日(木)，26日(金)9:00～17:00  
 会場 京大会館(Tel. (075)751-8311)  
 (〒606 京都市左京区吉田河原町15-9)  
 参加料 会員(協賛学協会員含む)  
 一般 17,000円  
 大学官公庁 8,000円  
 学生 4,000円

テキスト フラクトグラフィとその応用(昭56.発行予定)

フラクトグラフィの基礎	阪大	小寺沢良一
フラクトグラフィの技術	産業安全研	橋内良雄
破壊靱性の評価	東工大	小林英男
疲労破面と転位組織	阪大	片桐一宗
疲労き裂伝ばを支配する力学および材料因子	東工大	小林英男
変動応力下の疲労き裂伝ば	阪大	小寺沢良一
応力腐食割れ	阪大	向井喜彦
水素脆化割れ	住友金属	寺崎富久長
腐食疲労	京大	駒井謙治郎
高温破壊	阪大	小寺沢良一
高硬度材の破壊	武蔵工大	浅見克敏
鑄造品の破壊	川崎重工	喜多清
溶接部の破壊	阪大	荒木孝雄
事故解析への応用	三菱重工	藤原昌晴